

協働推進モデル事業計画書

(1) 実施体制

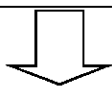
提案者	代表提案団体	特定非営利活動法人岡山市子どもセンター		(担当者名 窪田 昌子)			
	岡山市の担当者	課名	地域子育て支援課		電話	086-803-1224	
		担当	氏名	中嶋 敏雅		職名	課長補佐
			氏名	磯部 優美		職名	主事

(2) 事業の目標・内容 ※以下、数値や指標など用いながら具体的に記載してください。

①社会課題の概要	<p>※各種調査結果や他の地域と比べた岡山市の現状など</p> <p>※岡山市が取り組む理由(各種計画に基づくものか、新規に取り組むものかなど)</p> <p>国の定めた子ども・子育て支援法に基づく基本指針では、核家族化、地域関係の希薄化、少子化等の、子どもの育ちや子育てをめぐる環境の変化により子育てに不安感や孤立感等を感じる人が増えており、子どもの育ちと子育てを、行政や地域社会を始め社会全体で支援していく必要があるとされている。</p> <p>岡山市でも、市が行う「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」において、子育て環境「隣近所(地域)との付き合いについて」の問いに対し、「子育てや日常生活のことを話し合える人がいる」と回答した割合が平成28年度調査では41.1%であったのに対し、平成30年度調査では27.5%になるなど、子育ての孤立化がみられる。</p> <p>国は、子育て親子の不安感や孤立感を解消するためには、地域の身近な場所で、子育て親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供することが必要であるとし、地域子育て支援拠点事業を定めており、岡山市でも同事業を始め、類似事業である児童館、子育て広場等を実施している。</p> <p>しかし、令和元年度「岡山市就学前親子の居場所」に関する調査(平成31年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業)で、前述の事業の認知度や利用状況、利用希望については、各事業の平均認知度が73.7%であったのに対し、利用していると回答したのは16.5%、利用したいと回答した割合は48.4%であり、知っていて、利用したいと思っているが、利用につながっていない状況が伺える。特に未就園児の利用希望の平均は67.3%と就園児に比べて高かった。また、就学前の親子の居場所として「子どもが家ではできない遊びや新しい遊びを体験できる」「身体を動かして遊ぶスペースがある」への期待が80%を超える等、子どもの遊び環境に関するニーズも高い。</p> <p>そこで、岡山市市民協働推進モデル事業では、親子が気軽に集い、親同士の相互交流や相談ができる場(親子の居場所)、子ども同士が異年齢の中で遊べる場等を設置することにより、事業に参加する子育て親子の不安感や孤立感の解消を図るとともに子どもの健やかな育ちを支援する。また、実施内容等の検証を行い、親子の居場所の望ましい在り方等に関する報告書作成し、類似事業の実施主体と共有することにより、類似事業を含めた市全体の子育て支援の充実を図る。</p>
----------	---

<p>②定性的効果と定量的効果</p>	<p>※事業を評価するための、解決する具体的な内容と指標を記入して下さい</p> <p>●定性的効果</p> <p>【利用者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、子育てに対する不安な気持ち等の変化 ・子どもの様子（遊び相手、遊び方等）の変化 <p>【スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフから見た親子それぞれの様子の変化 <p>●定量的効果</p> <p>【利用者】 ※初回アンケートと令和3年1月頃の利用者評価アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てや日常生活のことを話し合える人、相談できる人、環境の変化 ・子どもとのコミュニケーション、遊ぶ時間の変化 <p>●方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①居場所を初めて利用する際にアンケート調査を実施する ②居場所の利用時、親子との日常的なやり取りからスタッフが記録を行い、不安感や孤立感の変化、子どもの様子の変化などを測定する ③1月頃に利用者評価アンケート及びスタッフの振り返りを実施する
<p>③提案事業の内容</p> <p>※箇条書きで簡潔に書いてください</p>	<p>1年目の目標</p> <p>ニーズ調査を踏まえて居場所の運営を進めるとともに周知を行う。また、積極的に親子に関わり子育て不安や孤立感の解消や子どもの育ちの促進が図られるように働きかける。加えて、日常的な振り返り及び研修や定例会議によるスタッフの資質向上も図る。</p> <p>(NPO)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前親子の居場所での実施内容等の協議 <ul style="list-style-type: none"> ①新見公立大学特任教授 八重樫牧子氏(アドバイザー)を含むスタッフミーティング ②担当課と団体との定例会議 ・就学前親子の居場所の運営(3h/日×週3)(含 子育て支援講座実施1回/月) ・利用者の様子の変化の記録 ・毎月の通信の発行及び居場所の周知 ・岡山県等が主催する、子育て支援に関わるスタッフの資質向上に関する研修への参加 <p>(岡山市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前親子の居場所での実施内容等の協議 ・周知広報(市政だより、子育て応援サイト等) ・岡山県等が主催する、子育て支援に関わるスタッフの資質向上に関する研修情報の提供、参加調整 <p>2年目の目標 ※1年目で終了する場合、記入の必要はありません</p> <p>1年目の振り返りを踏まえて引き続き居場所の運営を進めるとともに周知を行う。また、積極的に親子に関わり子育て不安や孤立感の解消や子どもの育ちの促進が図られるように働きかける。さらに、2年間の事業成果を受け、利用者の子育て不安や孤立感の解消が図られるような居場所のあり方に関する報告書を作成し、既存施設と共有する。</p>

	<p>(NPO)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前親子の居場所での実施内容等の協議 ・ 就学前親子の居場所の運営 (3h/日×週 3) (含 子育て支援講座実施 1 回/月) ・ 利用者の様子の変化の記録 ・ 毎月の通信の発行及び居場所の周知 ・ 岡山県等が主催する、子育て支援に関わるスタッフの資質向上に関する研修への参加 ・ 就学前親子の居場所のあり方に関する報告書の作成
	<p>(岡山市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前親子の居場所での実施内容等の協議 ・ 周知広報 (市政だより、子育て応援サイト等) ・ 岡山県等が主催する、子育て支援に関わるスタッフの資質向上に関する研修情報の提供、参加調整 ・ 就学前親子の居場所のあり方に関する報告書の作成及び既存施設への共有



(3) モデル事業終了後の事業

<p>事業終了後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 次年度に一般施策 <input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度に一般施策 <input type="checkbox"/> 次年度に提案団体の自主事業 <input type="checkbox"/> 市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度の自主事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (市民協働推進モデル事業として事業を継続し、次々年度の一般施策に向けて研究・調整を行う)
<p>事業の内容</p>	<p>国は、行政だけでなく NPO など多様な主体の参画による地域の支え合い、子育て当事者による支え合いにより、地域の子育て力を向上させることで子育て親子の不安感や孤立感の解消を目指している。</p> <p>NPO 法人として岡山市の子育て支援施策への参画を図り、地域の子育て力向上の一助とする。</p>

令和元年度「岡山市就学前親子の居場所」に関する調査

抜粋版

1. 今回調査の概要

1) 目的

岡山市の就学前親子が安全・安心に過ごせる居場所のニーズを把握し、就学前親子の居場所を充実していくために、本調査では、岡山市の就学前親子の居場所に関する実態を明らかにすることを目的とした。なお、本調査は「岡山市市民協働推進ニーズ調査事業」として、岡山市地域子育て支援課との協働により、NPO 法人岡山市子どもセンターが中心となって実施した。

2) 対象と期間

対象は、令和元年5月24日現在の住民基本台帳の情報から、岡山市に居住している0歳から6歳までの子どもがいる世帯の中から、無作為抽出した2,520世帯であった。調査は、令和元(2019)年6月に実施された。また、分析には、回答が得られた1275世帯分のデータを使用した。

対象数：2520世帯 有効回答数：1275世帯 有効回答率：50.6%

3) 調査方法

本調査では、就学前親子に関するデータを自作の無記名式質問紙調査票を用いて収集した。調査票は、家族(世帯)、子どもの就園状況、居住年数、就労状況、家族の健康状況、子育てのサポートをしてくれる人について、気がかりなこと・心配ごとについて、就学前親子の居場所のニーズについて、体罰等の意識と経験について、子どもの生活について、岡山市の就学前親子の居場所の認知・利用・希望について尋ねる項目で構成した。なお、調査票は、郵送調査法にて回収した。

4) 分析方法

本調査では、各調査項目の単純集計を行った。さらに、就園状況と各調査項目のクロス集計を行い、就園状況によって違いがあるか検討するために、有意差検定(カイ2乗検定)を行った。なお、就園状況については、「幼稚園」、「保育園」、「認定こども園」、「その他の園・施設に通っている」を「就園児」とし、「園や施設には通っていない」を「未就園児」とした。

2. 今回調査の分析結果(抜粋版)

表1 就学前の親子の居場所で何をしたい、何ができる場所だったら利用したいかについて n=1275

質問項目	とても そう思う	だいたい そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない	不明
子どもと一緒に遊ぶ	71.1 (906)	24.8 (316)	2.2 (28)	0.2 (2)	1.8 (23)
(親の)子育て仲間・友達ができる	39.6 (505)	40.5 (516)	16.5 (210)	1.6 (21)	1.8 (23)
スタッフ(職員)と話ができる	28.3 (361)	48.7 (621)	19.4 (247)	1.4 (18)	2.2 (28)
他の子どもの様子を見たり遊んだりすることができる	34.4 (439)	47.9 (611)	14.0 (179)	1.4 (18)	2.2 (28)
気分転換やリフレッシュができる	63.1 (804)	30.4 (388)	4.4 (56)	0.4 (5)	1.7 (22)
子ども同士で遊ぶ	68.0 (867)	27.7 (353)	2.5 (32)	0 (0)	1.8 (23)
子どもの友達ができる	69.2 (882)	26.0 (331)	3.1 (39)	0 (0)	1.8 (23)
子どもが親以外の大人と関わることができる	44.5 (568)	40.6 (518)	12.2 (156)	0.9 (11)	1.7 (22)
子どもが家ではできない遊びや新しい遊びを体験できる	83.3 (1062)	14.7 (188)	0.2 (3)	0.1 (1)	1.6 (21)
子どもとの関わり方・遊び方を支援してくれる	60.0 (765)	31.9 (407)	5.6 (72)	0.5 (6)	2.0 (25)
しつけや生活リズムづくりを支援してくれる	45.3 (578)	36.0 (459)	15.1 (193)	1.6 (21)	1.9 (24)
子育てについての情報を得ることができる	57.6 (735)	35.8 (456)	4.7 (60)	0.1 (1)	1.8 (23)
子ども向けのプログラム(運動、工作、音楽など)がある	69.3 (884)	27.3 (348)	1.4 (18)	0.2 (3)	1.7 (22)
親と子が一緒にふれあうプログラムがある	58.7 (749)	34.3 (437)	4.5 (58)	0.5 (7)	1.9 (24)
子育てに関する講座がある	31.9 (407)	40.5 (517)	23.1 (295)	2.5 (32)	1.9 (24)
子育てに関することを相談できる	42.1 (537)	43.7 (557)	11.2 (143)	1.2 (15)	1.8 (23)
病気・発達・食事・しつけなどの専門的な相談に応じてくれる	44.3 (565)	42.1 (537)	10.4 (132)	1.5 (19)	1.7 (22)
子育てに関して電話で相談することができる	23.3 (297)	38.5 (491)	30.8 (393)	5.4 (69)	2.0 (25)
子どもが遊びやすいように遊具や場所が用意されている	79.1 (1008)	18.6 (237)	0.5 (7)	0 (0)	1.8 (23)
身体を動かして遊ぶスペースがある	80.9 (1031)	16.6 (212)	0.6 (8)	0 (0)	1.9 (24)
事故やケガの防止、衛生管理、災害時等の備えがある	69.5 (886)	26.1 (333)	2.4 (31)	0.1 (1)	1.9 (24)
いつでも気軽に立ち寄れる	76.3 (973)	19.6 (250)	2.1 (27)	0.2 (2)	1.8 (23)
子どもを預かってくれる	46.6 (594)	31.7 (404)	16.5 (211)	3.2 (41)	2.0 (25)
妊娠中から利用できる	43.7 (557)	32.7 (417)	16.6 (212)	4.5 (58)	2.4 (31)

表中の単位は%、()の数値は度数を示す。

表1が示すように、「とてもそう思う」に80%以上の回答があった項目は、「子どもが家ではできない遊びや新しい遊びを体験できる」、「身体を動かして遊ぶスペースがある」の2項目であった。

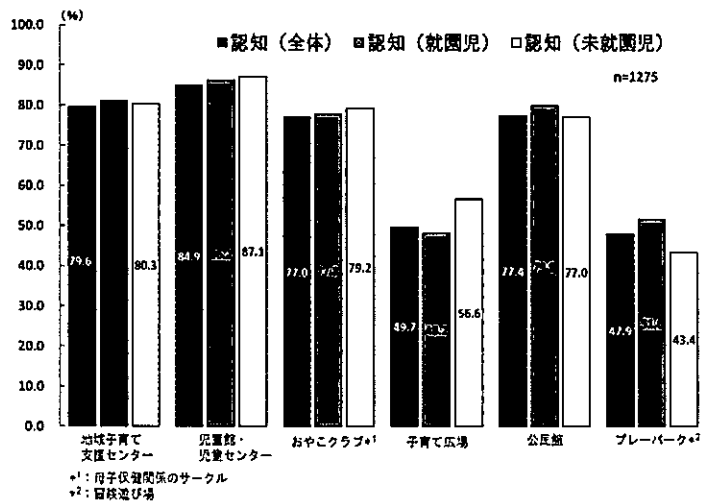


図1 岡山市の就学前親子の居場所について全体、就園状況別にみた認知

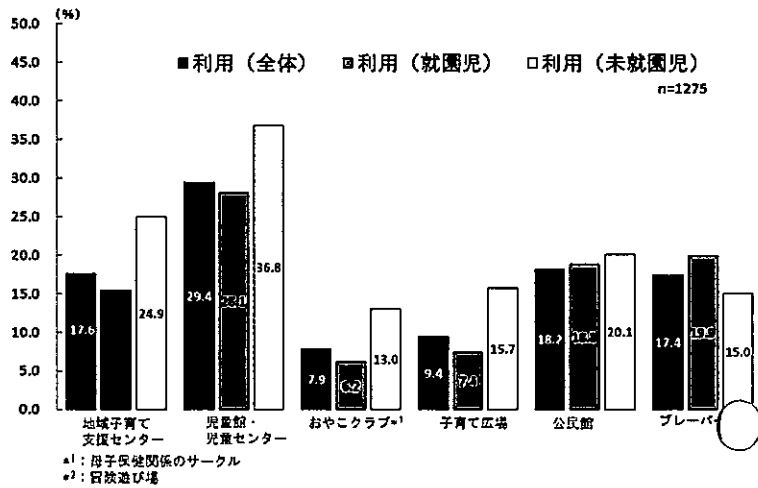


図2 岡山市の就学前親子の居場所について全体、就園状況別にみた利用

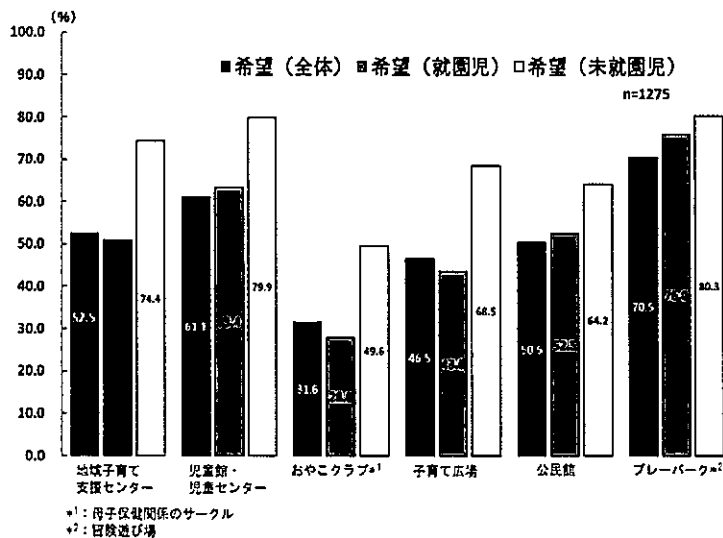


図3 岡山市の就学前親子の居場所について全体、就園状況別にみた希望

図1～3は、岡山市の就学前親子の居場所の認知、利用、希望について、全体、就園状況別にみたものを示している。図1をみると、全体、就園状況別ともに、「認知」が高い項目は、「児童館・児童センター」、「地域子育て支援センター」、「公民館」の順であった。なお、子育て広場については就園児に比べて未就園児の認知が高く、プレーパークについては、就園児の方が高くなっていた。

一方、図2をみると、全体で「利用」が高い項目は、「児童館・児童センター」、「公民館」、「地域子育て支援センター」と「認知」とは異なることが分かった。就園児では、「児童館・児童センター」、「プレーパーク」、「公民館」の順で利用している項目が高いことが確認された。未就園児では、「認知」と同様の項目であった。なお、「公民館」と「プレーパーク」の利用については、就園児と未就園児では差はなかったが、他の居場所について

では、いずれも就園児に比べて未就園児の利用が高くなっていた。

また、図3をみると、全体、就園状況別とも「希望」に最も高い項目は、「プレーパーク」であることが分かった。加えて、未就園児については、就園児と比べると、「プレーパーク」以外の岡山市が行っている事業の利用希望が高いことも確認された。

3. まとめ

以上のことから、就学前親子の居場所では、子どもの遊び環境に関するニーズが高いことが明らかとなった。また、岡山市が行っている事業の認知度や利用状況、利用希望について、どの事業も認知度はあるが、利用までにつながっていない状況が伺えた。未就園児においては、就園児に比べて、各事業への利用希望が高い様子も確認できた。今後は、これらの実態を踏まえ、親子が気軽に集い、親同士の相互交流、子ども同士が異年齢の中で遊べる場等の設置や事業の実施内容等の検証を行っていきたいと考えている。

(4) 事業スケジュール

※自由に枠を追加・結合・分割してご記入ください。

時期				
4月	上旬	居場所開設準備、		
	中旬	広報、利用者評価		
	下旬	方法の検討		
5月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
6月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
7月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
8月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
9月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		地域子育て支援拠点事業従事者現任研修 (基礎研修①②) ※H31 開催、岡山県主催 利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
10月	上旬		地域子育て支援拠点事業従事者現任研修 (発展研修①) ※H31 開催、岡山県主催	スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
11月	上旬		地域子育て支援拠点事業従事者現任研修 (発展研修②) ※H31 開催、岡山県主催	スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
12月	上旬		利用者アンケートを実施 地域子育て支援拠点事業従事者現任研修 (発展研修③) ※H31 開催、岡山県主催	スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行	
1月	上旬			スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬		通信の発行、利用者評価アンケートの実施	
2月	上旬		利用者評価アンケートのまとめ	スタッフミーティング (含アドバイザー)
	中旬		利用者向けの子育て支援講座の実施	担当課とスタッフとの定例会
	下旬			

・週3日、1日3時間の居場所運営
・初回利用者へのアンケート及び日常的な記録 (5月～2月)

(様式第3号)

協働事業収支予算書

提案事業名	就学前親子の居場所づくり事業
-------	----------------

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体 自己資金		
	合同提案 団体負担金等		
自己資金合計 (a)			
その他収入	参加費 (実費)	30,000 円	@200×150 人 工作の材料、イベント時のおやつなどの実費
その他収入合計 (b)		30,000 円	
岡山市補助金申請額 (c)		2,000,000 円	
収入合計 (d) = (a) + (b) + (c)		2,030,000 円	

<支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	人件費 (スタッフ)	1,481,040 円	@850×4H×12 日×11 か月×3.3 人
	報償費 (アドバイザー)	88,000 円	@8,000×1 日×11 か月×1 人
	報償費 (講師謝金)	55,680 円	@5,568×10 人
	負担金	10,000 円	@500×5 人×4 回の研修会参加費
	消耗品費	106,780 円	インク、コピー用紙、玩具、絵本他
	食糧費	8,000 円	会議でのお茶代
事業実施経費合計 (e)		1,749,500 円	
管理運営経費	人件費 (事務局)	280,500 円	@850×6H×5 日×11 か月×1 人
管理運営経費合計 (f)		280,500 円	
総事業費 (g) = (e) + (f)		2,030,000 円	

(添付書類等)

- ・人件費等については、積算の根拠 (これまでの実績や独自の単価表) を添付すること
- ・参加料などの事業収入を見込む場合は「その他収入見込」欄に計上すること
- ・委託費補助金交付申請額の3分の1以内に限りま。